

シリーズ

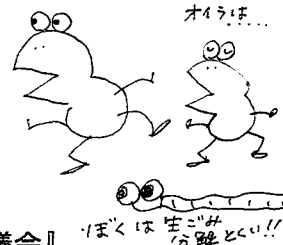
ごみの資源化施設の建設に関する意見交換会

草の根 レポート ② 2月20日 於て 成瀬市民センター

2月22日 於て 堺市民センター



* はじめに



町田市の諮問を受け、2009年6月から2011年3月にかけて『廃棄物減量など推進審議会』（会長 細見正明氏）が開かれ10年後の町田市のごみ処理のあり方について答申を出した。答申の基本理念は「町田市43万市民は、地域や地球の環境を守るために、「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋め立てない」を原則とし、徹底したごみの減量・資源化を図りつつ持続可能で環境負荷の少ない都市を目指すこととしている。具体的には、2009年度ごみとして処理している9万9千tを2020年までに6万tに減らす計画で、ごみとして処理する量の40%を削減することになる。また、現状の資源化率27%を54%に進めることとなる。この答申をうけ、市は2011年4月『町田市一般廃棄物資源化基本計画』を策定した。この『町田市一般廃棄物資源化基本計画』をもとに2011年5月、『町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会』（委員長 細見正明氏）が発足。2020年度に新たなごみの資源化施設を稼働することを目指した検討が始まっている。この間の検討内容を、市民と意見交換し今後の検討に反映するため、意見交換会が始まった。

* 成瀬市民センターで出された市民意見の概要

○現在問題となっている小金井市のこと、何故施設計画が頓挫しているのか？町田市で同様な状態が起きたらどうするのか？町田市のごみの現状は減っているが、発電効率が下がるのではないのか？施設建設に防災センターの機能をあわせるとよい。施設の建設地となれば収集車の騒音振動大気汚染が心配。道路舗装はアスファルトよりコンクリートのほうが、機能・コスト・環境面でいいと思う

○現在のごみ処理施設の対応年数はどのくらいか。焼却炉を現在の施設で立て替える場合、ごみ処理を続けたままで可能なのか。廃プラスチック処理施設については行政のいう安全と市民の言う安全は違うように思う。今後候補地が決定したときそのギャップを埋めるために十分な対話を

○分散される施設の騒音や悪臭の対策は？候補地となった地域に余計な心配をさせないような対策と十分な情報開示をしてほしい

○メタンガス化の際の発酵残渣の焼却については「焼却」というより「熱回収施設の補助燃料」というほうが適切だと思う

○本日は参加者が少なくてもったいないし、委員には、申し訳ない気持ち。もっと多くの市民に参加を呼びかけてほしい

* 堺市民センターで出された市民意見の概要

- 現在の全ての施設の寿命はどうか？
- 計画の焼却炉のほうが焼却能力が低いのでは？能力のいいほうがいいと思うが
- 発泡スチロールや卵のトレイも資源化してほしい
- 生ごみのメタンガス化はいいが、環境に負荷のかからない施設に。町田市の財産になるよう、メタンの売電のようなことができればいい
- 資源化の種類増やしてほしい
- プラスチックの資源化は賛成。そもそも、食品トレーとか多すぎる減らすこともまた重要。事業者への働きかけをしてほしい
- 建設候補地を考えると、プールが利用できるようにするためには、現在のところがいいのでは
- 家庭用の生ごみ処理機を使っているが100%処理しきれない。バイオチップが高い。もっと安くないか
- 意見交換会についての回覧が回るのが遅い。回覧回りきっていないのでは
- 資料を見ると新しい計画のほうが焼却工場からのデータが悪くなっているように読める
- 運転する為の、設計値なのか、自主規制値なのか、実測値なのか整理しないと、市民には、きちんと伝わらない
- 一次選定、二次選定案、三次選定の意味がわかりにくい。現在、二次選定案ということだったら、もっと詳しい地図が出ないか？
- 外食産業からの生ごみが沢山出ていると聴く。外食する時は食べ残さないように、どうしても時は持ち帰りを・・・といった意識がもてるような取り組みが出来ないか。子供たちの総合の時間を活用して、ごみを出さないような環境教育ができないか。みんなで、ごみの発生抑制に取り組むことが大切。ごみを出さないという理念は大事。共働きで子育てに追われている私のような若い人たちにとって、肥料化や堆肥化をと言われても、時間的にも肉体的にも難しい。ごみを減らしたいと思っていてもやりづらい。そんな市民にとって、生ごみのメタン化という取り組みは大事だと思う

*『町田市一般廃棄物資源化基本計画』(以下基本計画)をもとに「資源循環型施設整備基本計画検討委員会」が発足し基本計画の施設整備の検討をしていること。その検討の中身をより充実させるために「市民との意見交換会」を開いていること。この事自体を市民に伝えることの難しさを第一回のリサイクルセンターでの意見交換会で感じた。

*ただし、前回と異なり、この2地域では、意見交換会の主旨にのっとり、「施設建設地となったらこんな不安がある・・・」とか、逆に「こうにすればいいのでは・・・」といった意見が出された。「安心・安全をどうつくるのか」の問いに「何か起きたら施設を止めて、専門家にも入ってもらい検討するというのを、今後提案していきたい」という委員の意見は今後の施設建設にあたっての大切なポイントだと思った。

*次世代を担う若い母親の意見には、成程と思うところがあった。

*データの表現の仕方は今後の大きな課題。委員会・環境部職員がもっと判りやすいかつ正確な情報を資料に出来るか・・・挑戦してほしい！

*市民の参加が少ない。広報の方法の工夫も必要だと思う。

*市民協働はしんどく、難しいけれど、この取り組みをどうして、協働の輪が広がり、土台作りが出来れば収穫は大きいと思う。

草の根

